

<b>取り組んだ テーマ</b>	<b>『個々の生徒の状況に合わせた支援と校内連携体制』</b>
----------------------	---------------------------------

### 1 達成に向けた手立て

- ・ 個々の児童・生徒へのアセスメント
- ・ 校内体制のアセスメント「チームを作る」
- ・ 支援方法の検討

### 2 取組の成果と課題

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『教育相談の会議』を開催することで、校内の連携体制の「ハブ」のような役割を果たす形に変わってきた。</li> <li>・ 会議の効果的な開催が実施されることで、「困っている児童・生徒」をピックアップして、校内で連携、対応していくことを重ねることでチームができあがってきた。</li> <li>・ 校内チームができあがることで、地域の関係機関との連携もスムーズになり、地域の支援者を学校がより身近に感じることができた。</li> <li>・ 会議で取り組みを議論するために、学年会議で事前に協議をするなど、ハブの役割を果たす「教育相談会議」を起点に、校内の他の会議も含め、取り組みがより推進される好循環となった。</li> <li>・ 見立て（アセスメント）から、プランニング、支援介入が先生方と役割分担をしながら、行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個々の課題・ニーズの解決</li> <li>・ 途切れない支援を行うための地域との連携</li> <li>・ 上級学校への進学を検討せず、進路未決定という選択をした生徒へ対して、継続して支援を行ってもらえる機関がない。</li> <li>・ 中学卒業後の進路選択の難しさ →アフターケアが不足している。</li> <li>・ 不登校からひきこもりに至ってしまうケースへの支援体制が作りづらい。社会と隔絶してしまう。</li> <li>・ 保護者との課題の共有の難しさ</li> <li>・ 中高連携の時期に、任期が切れてしまい、支援が行き届かないままになる。</li> </ul>

### 3 次年度に向けて

- ・ 卒業後、進学が難しかった生徒や、さまざまな課題を抱えて、校内において手厚く支援を行った児童・生徒に対してのアフターケアに取り組む体制が作りたい。
- ・ 業務中での家庭訪問や、電話連絡等（校長との連携のもとに）行う。
- ・ 職能団体の活用（社会福祉士会や、精神保健福祉士会）
- ・ 地域の課題として、行政の該当する会議や、審議会に相談をしていく。